

学生の清き一票を

福井大学祭 模擬選挙で 投票啓発

衆院選などで若者の投票率を上げようと、ボランティアグループ「真明るい選挙推進青年活動隊」(広部舞代表)は30日、福井市文京の福井大文京キャンパスで開かれている大学祭会場に選挙啓発ブースを設け、



模擬投票は、大学生活を

より楽しむためのアイデアを学内の団体がマニフェストとして発表し、来場者に支持団体を投票してもらおう形式で実施。吹奏楽部など3団体が、マニフェストを記した紙をブースに張り出し、各代表者が支持を訴える演説を順次行った。実際の選挙で使われる投票箱が用意され、来場者は次々と支持団体に投票。計267票が集まり、同グループのメンバーが実際の選挙

投票箱に票を入れる
学生ら(福井大文京
キャンパス)

挙さながらに開票作業を行い、結果を発表した。投票した同大学大学院工学研究科2年井口将浩さん(23)は「今までは面倒に思い、選挙に行かなかった。身近な大学のこのこととなると、それぞれの主張を真剣に検討し、投票する気になった。次の投票機会には足を運びたいと話していた。

福井大学園祭で 選挙の啓発活動

CEPT

学生らに政治への関心を高めてもらうと、県内の若者でつくる真明るい選挙推進青年活動隊「CEPT(セプト)」は30日、福井市の福井大文京キャンパスで開かれた学園祭にブースを設け、啓発活動を行った。

CEPTは19-24歳の福井大生や会社員ら9人で構成。近年の選挙では、若年層を中心に投票率の低下が著しいため、若者が集まる学園祭にブースを出展した。メインの催しは、ソフ

トニスなど同大の3サークルが「キャンパスライフ向上大作戦」をテーマに「マニフェスト」を発表した模擬選挙。各サークルの代表者が、休みの時間に学生のリクエストに応じた音楽を流す▽サークル対抗運動会の開催▽学内にショップिंगモール開設などの活動をアピールした。

学生らは、支持するサークルを選び、実際に選挙に使われる投票箱に投票した。

選挙に関するアンケートやチラシによる啓発なども実施。CEPT代表の廣部舞さん(23)は「坂井市は『選挙は自分の意見を政治に反映できる機会。生活をより良くするために一票を投じてほしい』と呼び掛けていた。